

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463394

研究課題名(和文) 精神疾患を有する親の子どもに向けたweb-basedサポートプログラムの開発

研究課題名(英文) Development of web-based support program for children in families with parental mental illness

研究代表者

上野 里絵 (UENO, Rie)

東京医科大学・医学部・准教授

研究者番号：20598677

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：精神疾患を有する親と子ども・家族のためのWEBによる支援を検討した結果、オーストラリアのCOPMIは先駆的なWEBによる支援を実施しており、特に専門家に向けたLet's Talk About Children (LT) のeラーニングの有用性が明らかになった。

そこで、日本でのLTのeラーニングの将来的開発に向け、まずは日本でLTの適用可能性に関する予備的調査を実施した結果、その安全性、実現可能性、および有用性が示された。

他方、精神疾患を有する親と子ども・家族を支援する専門家の支援の実態およびニーズに関する全国調査の結果から日本でWEBによる支援に取り入れるべきコンテンツが示唆された。

研究成果の概要(英文)：Having reviewed development of web-based support programs for children in families with parental mental illness, I found that the Children of Parents with a Mental Illness (COPMI) in Australia had been conducting the most pioneering web-based support programs. Notably, the e-learning program of the "Let's Talk About Children (LT)" had a good enough usability.

For developing the Japanese e-learning LT program, I conducted a pilot study for adapting the LT in Japan. Safety, feasibility, and acceptability of the Japanese LT were indicated in the research.

In addition, I conducted the national survey on the actual situation and needs of support by the mental health professionals, who support parents with mental illness and their children and/or families. From the results of the study, I found some possible contents for the future web-based support program for children in the families with parental mental illness in Japan.

研究分野：医歯薬学

キーワード：精神疾患を有する親 精神疾患を有する親の子ども サポート 家族支援 web-based

1. 研究開始当初の背景

精神疾患を有する親の子ども(以下、子ども)への支援は重要な課題であるが、日本の支援体制は不十分である。加えて、子どもが必要な支援につながらない現状がある。

そこで子どもへの支援の一つとして web-based による方法がある。web-based サポートプログラムによる支援方法は、アクセシビリティ及びアベイラビリティが高く、web2.0 の双方向性のプログラム構築が可能であり、費用対効果の点からも意義は高く、発展してきている。オーストラリア等では、子どものレジリエンスの向上に関するエビデンスや予防的観点から web-based サポートプログラムの開発と活用が進んでいる。日本においても web-based による子どもへの支援について検討することは必要である。

2. 研究の目的

(1) 精神疾患を有する親と子ども、その支援者を対象とした web-based サポートプログラムが開発され、活用されている各国のプログラム内容、実施状況、効果、課題等の情報収集及び分析を行う。精神疾患を有する親と子ども、その支援者も含めた包括的な情報収集を行い、検討する。

(2) 平成 26 年度に得られた各国からの情報と分析の結果、精神疾患を有する親と子どもへの支援を、オーストラリア政府のサポートのもと実施している COPMI (The Children of Parents with a Mental Illness) が web-based サポートプログラムを先駆的に実施していることが明らかになった。中でも、専門家に向けた e-learning の一つにフィンランドで開発された親と子ども・家族を支援するためのエビデンスに基づく支援“Let’s Talk About Children”に着目し、日本でも実施できるようまずは適用に関する予備的介入調査を実施する。

(3) 日本における web-based サポートプログラムに必要なプログラム内容を専門家らと吟味、決定するため、日本における精神疾患を有する親とその子どもへの支援の実態及び専門家のニーズを明らかにすることを目的とした全国調査を実施する。

3. 研究の方法

(1) 目的(1)に対して、インターネットや論文、国際学会などから各国の web-based サポートプログラムに関する情報収集、分析、検討を行った。

(2) 情報収集、分析、検討の結果、オーストラリア政府の助成を受けている COPMI による web-based サポートプログラムが先駆的であり、実績を確認したため、COPMI をモデルとして検討することに決定した。具体的には、精神疾患を有する親と子どもには支援資源の情報提供、加えて専門家には支援に関する情報提供と支援方法を提供することを目的としたホームページを作成した。さらに、オーストラリアでは、支援者に向けた“Let’s Talk About Children”というエビデンスに基づく精神疾患を有する親と子ども・家族への支援法に関する e-learning を実施していたことより、日本での e-learning 開発の手順として、まずは日本における“Let’s Talk About Children”の適用可能性についての予備的介入調査が必要と考え、実施した。

(3) 精神疾患を有する親と子ども・家族を支援する全国の施設(精神科病院、保健所、保健センター、精神保健福祉センター、児童相談所、支援団体、子育て支援担当部署)を対象に、支援の実態および専門家のニーズ把握を目的とした無記名自記式質問紙調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 精神疾患を有する親と子ども、専門家を対象とした web-based サポートプログラムに関する各国の情報収集の結果、オーストラリア政府がサポートしている COPMI (The Children of Parents with a Mental Illness) は、親と子ども・家族に対して、それぞれの立場に応じた支援資源に関する情報提供をはじめ、専門家への e-learning プログラムの作成と提供がなされていた。いくつかある e-learning プログラムの中でも、フィンランドで開発された精神疾患を有する親と子ども・家族を支援するためのエビデンスに基づく支援“Let’s Talk About Children”はオーストラリアでも有用性が証明され、また e-learning における実用可能性についても報告されており、諸外国に比してオーストラリアの COPMI による web-based での支援プログラムは先駆的であり、実績をもち、発展的可能性があることが明らかになった。

(2) 研究成果(1)より、日本における Let’s Talk About Children の e-learning 開発は有用であると考え、これにあたり、まずは日本における予備的介入調査を実施した。本調査の実施にあたり、Let’s Talk About Children の開発者であるフィンランドの児童精神科医ソランタウス先生の協力を得ながら実施した。調査対象は、都内大学病院の外来に通院する気分障害を有する者のうち、8歳から18歳までの精神科に受診していない子どもを育てているなどの条件に該当し、研究参加への同意を得た9名であった。9名中8名は母親であり、9名中6名が2人の子どもを育てており、平均年齢45.2歳、平均罹病期間5.8年であった。研究参加者全員に Let’s Talk About Children の完遂を実施した。完遂後の質問紙調査より、Let’s Talk About Children の安全性、日本での実現可能性、有用性が示唆された。

表1. LT 有用性の予備調査の結果(一部)

Items	N	Positive change* n (%)	No change n (%)	Negative change** n (%)
Self-Understanding				
Self-acceptance	8	7 (87.5)	1 (12.5)	0 (0.0)
Shame	8	5 (62.5)	3 (37.5)	0 (0.0)
Prejudice	8	4 (50.0)	4 (50.0)	0 (0.0)
Guilt	8	5 (62.5)	3 (37.5)	0 (0.0)
Family Understanding				
Understanding the spouse	7	3 (42.9)	4 (57.1)	0 (0.0)
Understanding the children	8	3 (37.5)	5 (62.5)	0 (0.0)
Couple relationship	7	1 (14.3)	6 (85.7)	0 (0.0)
Relationship with children	8	4 (50.0)	4 (50.0)	0 (0.0)
Relationship between children	5	2 (40.0)	3 (60.0)	0 (0.0)
Parenting				
Confidence in parenting	8	5 (62.5)	3 (37.5)	0 (0.0)
Sense of adequacy as a parent	8	4 (50.0)	4 (50.0)	0 (0.0)
Future Orientation				
Confidence in one’s own future	8	3 (37.5)	5 (62.5)	0 (0.0)
Confidence in children’s future	8	5 (62.5)	3 (37.5)	0 (0.0)
Confidence in family future	8	2 (25.0)	6 (75.0)	0 (0.0)
Others				
One’s own well-being	8	6 (75.0)	2 (25.0)	0 (0.0)
Importance of one’s own treatment	8	8 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
Worries about children	8	5 (62.5)	3 (37.5)	0 (0.0)

* This includes “very positive change” and “positive change.” ** This includes “negative change” and “very negative change.”

さらに、COPMI を参考に、精神疾患を有する親と子ども・家族、専門家に向けた支援資源に関する情報提供を主たる目的としたホームページを作成し、情報発信などを行った。

加えて、本ホームページ上では、Let’s Talk About Children の研修受講希望者を募った。結果、4人(看護師1名、心理職2名、精神科医1名)に研修を実施した。研修実現には至らなかったが、本研修に関する3件の問い合わせを受けた。

(3) 精神疾患を有する親と子ども・家族を支援する専門家の支援の実態およびニーズを把握することを目的に無記名自記式質問紙を用いた全国調査を実施した。結果1909施設(回答率31.2%)より回答を得た。回答者の職種として、保健師が最も多かった。精神疾患を有する親の18歳未満の子どもへの支援は、ほとんどすべての回答者が必要と回答し、その理由として子どもの成長発達や生活への影響、親の養育困難や虐待などが多く回答された。他方半数以上が子どもから直接相談を受けたことはないとは回答していた一方、約80%が18歳未満の子どもをもつ精神疾患を有する親から子育ての相談を受けたことがあると回答した。親からの相談内容として多かった回答は、子どもへの不適切な関わりと家事育児が困難であった。専門家の多くは、精神疾患を有する親と子どもへの支援

に困難を感じ、支援に関するニーズでは、支援に関する知識・情報が最も多く回答された。精神疾患を有する親と子ども、さらには専門家に向けた web-based サポートプログラムに必要な内容が本調査にて明らかになると同時に今後の課題についても示唆された。

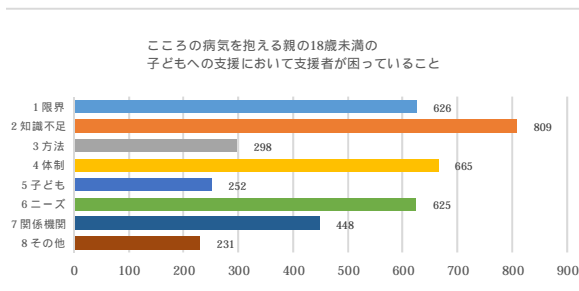


図1. 全国調査の結果 (一部抜粋)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

上野里絵, フィンランドで家族支援の仕組みを学ぶ—精神疾患をもつ親と子ども・家族への支援、精神看護、査読無、Vol.21、No.2、2018、pp82-87.

〔学会発表〕(計2件)

Rie Ueno, Hirokazu Osada, Japanese clinicians' practices and thoughts about supporting parents with mental illness and their children – A preliminary study, Transgenerational Mental Health: the 5th International Conference on Families and Children with Parental Mental Health Challenges, August 17-19, Basel, Switzerland, 2016.

Rie Ueno, Hirokazu Osada, A Study on the Utilization of the Japanese Version of Two Booklets that were Developed by Dr. Tytti Solantaus in Finland- “How Can I Help My Children?” and “What’s Up With Our Parents?” 12th International Family Nursing Conference, August 18-21, Odense, Denmark, 2015.

〔その他〕

ホームページ

「こころの病気をかかえている親の子どもへの支援」

<http://www.ltacj.org/index.html>



図2. ホームページ (一部抜粋)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上野 里絵 (UENO, Rie)
東京医科大学・医学部・准教授
研究者番号: 20598677

(2) 研究協力者

長田 洋和 (OSADA, Hirokazu)